

平成28年度 徳島県立阿南工業高等学校 学校評価 総括表

1 教育目標

- ① 一人ひとりの生徒の個性や多様性を理解し、基本的人権を尊重する教育を推進する。
- ② 自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動できる人間力を育成する教育を推進する。
- ③ 社会の一員としての役割を果たし、それぞれの個性、持ち味を最大限発揮しながら、自立していくために必要な能力や態度を育てるキャリア教育を推進する。

2 本年度の学校経営目標

- ① 職業人として必要とされる資質や態度を身につけた人材を育成し、個々の進路実現が図れる学校づくりを推進する。 [学校力の向上]
- ② 豊かな人間性と高い人権意識を身につけ、他者を思いやる心と自尊感情を育む。 [人間力の向上]
- ③ 専門分野に関する確かな技術及び技能の定着を図り、ものづくりなどの体験的学習を通して実践力を育成する。 [実践力の育成]
- ④ 地域の活性化や地域産業を担う人材の育成と地域との連携を深め、地域から信頼される開かれた学校づくりに努める。 [地域との交流]

3 重点目標と計画

| 自己評価 | | | | | | 学校関係者評価 | 次年度への課題 今後の改善方向 |
|--------|----------------------|--|---|---|----|---|--|
| 中期目標 | 重点目標 | 目標達成のための計画 | 評価指標・活動計画 | 具体的な取組・評価の根拠 | 評価 | 学校関係者の意見 | |
| 学校力の向上 | ①基礎学力の定着を図り、学力の向上を図る | 出張等による授業振り替えや学校行事等の精選・実施方法の工夫により授業時数の確保に努める。 | 年間の授業実施時数を1単位につき35時間の80%以上確保することを目標にする。 | 授業実施率86.6% (昨年度86.5%) | A | 基礎学力向上週間は大変良いことだが、内容が大切である。各個人の成果が見える方策の検討が必要である。 基礎学力の向上は重要な事柄であるので、状況により下年次のドリルなどを活用することも良い方法である。 作文を書く機会が多くできたのは、非常に良いことである。手間がかかるが添削指導は必ず実施して、本人に解説をすることが大切である。 | 学校行事の精選等により授業時間数の確保に努めていきたい。 授業内容が、将来どのように活かされるのかという関連性の理解について十分な取り組みや指導方法の検討が必要である。 実力テストの内容を精選し、進路実現に役立つように見直しを図る。 基礎学力向上週間の内容を再検討し、学校全体で取り組む雰囲気作りを行う。 ものづくりHRの内容を再検討し、達成感のある内容にする。1, 2年生の作文を書く機会を増や ら体験し、感じ、考えたことを作文にまとめるなど、的確な言葉で表現する学習 |
| | | 各教科の「学習指導の記録」の作成・中間評価・最終評価を実施して、わかりやすい授業へ改善を進める。 | 生徒の授業評価アンケート総合評価4.0以上を目標にする。 | 2学期末に実施した授業評価アンケートにおいて総合平均4.16(4.02)であり、昨年度よりも向上した。 | A | | |
| | | 実力テストを実施する。 1年生：国, 数, 英 2・3年生：国, 数, 英, S P I (2回)を全学年とも年3回実施する。 | 実力テストと進路実現との関連についてアンケートを実施する。 | 実力テストが学力向上に役立つと答えた生徒が全体の66%であった。 | B | | |
| | | 基礎学力向上週間を年間5回実施する。 | 基礎学力向上週間についてアンケートを実施する。 | 基礎学力向上週間が役立つと答えた生徒が全体の60%であった。 | B | | |
| | | ものづくりHR活動を各学年1回以上実施し、手先の器用さや忍耐力の向上を図る。 | ものづくりHR活動についてのアンケートを実施する。 | ものづくりHRが手先の器用さや忍耐力の向上に役立つと答えた生徒が全体の69%であった。 | B | | |
| | | 教科・科目の特性に応じて、基礎基本的な知識と技能の習得させ、思考力 | 興味関心を高める楽しい授業・わかる授業を目指して授業の工夫・改善を進める。教員 | 基礎学力向上週間にあわせて教員の相互授業参観を行った。 国語科では、3年生は国語の授業 | B | | |

| | | | | | | |
|---------------------------------|---|--|---|--------|--|--|
| | ・判断力・表現する力等を育み、言語活動の充実を図る。 | の相互授業参観・生徒による授業評価などを通して教員間の生徒理解を深め、理解やスキルの共有化に取り組む。 | や進路指導を通して作文を書く機会が多く設けることができた。作文や応募作品の提出率は100%であった。 | | 自分の進みたい進路を実現するためには、まず、基礎学力を身につけること、資格を数多く取得すること、そして、あいさつや遅刻、欠席などの基本的な生活習慣を確立することである。 | 活動を通して、生活言語を増やしていく。作文やコンクール応募作品の課題を出し、提出率100%を目指す。 |
| | 生徒の発達段階を考慮して、言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図り、生徒の学習習慣が確立するよう指導する。 | 挨拶、授業態度、提出物など学習習慣に関連する課題に取り組み生徒のアンケート結果で判断する。 | 生徒の授業評価から「興味を持って取り組んでいる」が5段階評価で4.2(3.8)である。 | B | | 必要に応じて家庭との連携をとり、出席状況の改善を図り、家庭学習の習慣を身につけられるように指導する。 |
| ②進路実現を支援するキャリア教育を進める | キャリア教育で身につけさせたい4つの能力・態度を育む。 ①「かかわる力」(人間関係形成・社会形成能力) ②「みつめる力」(自己理解・自己管理能力) ③「すすむ力」(課題対応能力) ④「えがく力」(キャリアプランニング能力) | 進路ガイダンスや進路講演会実施により進路選択を支援する。 三者面談、応募前職場見学、進路先資料の公開を通して進路選択を支援する。 採用実績を考慮に入れた進路選択により内定率の向上を目指す。 生徒アンケートによる評価を行う。 | 受験生80人中75人が応募前企業見学が可能であり、その内およそ9割の67人が応募前見学に参加した。(不参加者は概ね部活動などによる)企業を知る良い機会となっている。 一次募集の内定率が85%(68/80)であり、例年並みの結果であった。依然、学科試験の成績が今一步で不採用となった生徒が多かった。 | A | 職業の理解、社会人として必要とされる資質、マナーを学ぶために、今後も社会人講師による講演会、インターンシップ、工場見学等を積極的に行って欲しい。 | 本当の意味での応募前企業見学(面談で決定する前の見学)が実施できる環境作りの検討を行う。 進路説明会への保護者の参加率を向上させる方法の検討を行う。 入社試験における学科試験対策についての検討を行う。 県内企業の訪問先についての検討を年度当初に一念に行い、適切な企業訪問を実施する。 |
| 進路情報の収集・提供と進路選択の支援及び就職内定率の向上を図る | 3年担任、科長、進路指導課員が、最新の進路に関する情報を収集し、生徒に適切な情報の提供に努める。生徒の能力・適性を生かした進路指導と進路選択の支援を行う。 | 生徒の希望する企業等を訪問し、適切な資料や情報を収集する。 | 県外のべ35社、県内数十社に出向き求人計画、入社試験概要などの聞き取り調査を行い、生徒に有意義な資料を提供できた。 | B | 教員相互授業参観は是非必要である。引き続き授業の進め方について、率直な意見交換を活発に行うことをお願いしたい。 | 校内研修の活性化のために、研修時間の確保を図る。 職員全体の研修会の開催が困難な場合は、各学年部会を開くなどして研修の機会を確保する。 次年度も昨年度並みの研修を実施する。利用しやすい場所に配置し、生徒のリクエストを蔵書に反映させる。 |
| ③校内教職員研修の充実を図る | 各課と連携し校内研修の充実を図る。 | 昨年度以上の研修を実施する。 | 人権教育、教育相談、コンプライアンス研修は昨年度並みに実施できた。授業改善のための相互授業参観の定着化、研修の活性化が図られた。 | B | | |
| ④図書館の利用を進める | 図書館便りを定期的に発行したり、新生生にはオリエンテーションを実施する。 | 来館者を増やす。 生徒1人あたりの貸し出し冊数を増やす。 | 生徒1人あたりの来館回数は8.7回であった。 生徒1人あたりの貸出冊数は9.3冊であった。 | C A | 教職員研修は講話を聞くだけでなく、それぞれが自分の意見を発表する機会を多くするような形態が良い。 | |
| ⑤情報セキュリティ対策を推進する | 情報セキュリティポリシーに関する知識の啓蒙を行う。 | 職員会議・職朝を積極的に活用し注意喚起し、セキュリティに対する意識の向上を図る。 | 1月末の時点で4回 | B | | 基本的なことに関して少しずつ繰り返し啓蒙を行うことを心がける。回数を増やす。月1回を目指す。 |
| ⑥事業の実施による | 6次産業化プロデュース事業など地域や農工商連 | 事業の実施により、創造力と実践力が身についたか、アン | 連携4高校生徒が協働し、多岐にわたる実践的な活動が出来た。あわ教 | A | | 地域の次代の人財育成をめざして、さらに、事業推進 |

| | | | | | | |
|-------------|-----------------------------------|---|--|--|---|---|
| | る活性化を図る | 携による産業人材の育成を図る。 | ケート結果により60%程度の満足度を得る。 | 育発表会や成果報告会では、取組報告及び成果の発表が出来た。携わった生徒のアンケート結果でもほぼ全員が満足を得る結果であった。 | | を図りたい。 |
| ⑦部活動の活性化を図る | 全員加入を目標とする活気ある部活動を実施する。 | 1年生の部活動加入率95%以上、全体での入部率85%以上。 | 1年生の部活動加入率は、96%。学年全体では、84%であった。大きな要因として2・3年生の加入率が低く、部活動より他のことへの興味が向けられていると考えられる。 | B | 部活動、特に運動部は、心身の健全な発育・発達を促すだけでなく、それを通じて自己責任やフェアプレーの精神を身につけることができる。さらに、豊かな心と他人に対する思いやりの心を育ててくれると同時に、学校の活性化にもつながるので、是非今後も奨励して欲しい。 | 部活動で学べることの大切さを継続して指導し、近年の部活動離れを食い止め、昨年以上の部活動加入率アップを目指したい。 |
| | 競技力の向上を目ざす。 | 前年度を上回る成績や、活動実績を上げる。 | 本年度も写真部の活動が活発で、徳島県高校総体写真コンクールでは、最優秀賞を受賞した。運動部も剣道部、ホッケー部が全国総体に出場した。また、溶接技術競技会では四国大会にも出場するなど活躍した。 | B | | 新チームでの全国大会出場が減少した。2年生の入部率低下が大きく影響しているものと考えられる。現1年生が部活動を継続できる指導を行う必要がある。 |
| | 自主的に活動できる生徒を育成する。 | 中央委員会の活動を活発にするよう年3回は計画する。 | 球技大会は生徒会役員が自主的に運営ができています。今年度の文化祭では、生徒会が模擬店を出店した。また学校間連携事業では、新野高校とともに伊島ささゆりの保護活動にも参加した。 | B | | 今年度も生徒会会長選挙では立候補者がおらず、中央委員会の推薦となった。来年度は、生徒会中心の人材の育成を図りたい。 |
| | 体育祭、文化祭を充実する。 | 文化祭での来校者数が300人以上。体育祭で近隣の保育所、幼稚園などと交流を行う。 | 文化祭前夜祭では、学校間連携事業で、新野高校の生徒、教職員40名をお招きし、東京よりバンド「シュノーケル」のライブを実施した。ライブ時に本校校歌と新野高校の校歌を演奏していただき、距離が縮まった。また、アンケート結果では満足であったの回答は93%であった。文化祭は、240名の来校者であった。近年保護者の来校も多く見られるようになった。 | A | | 当日近隣校の学校行事と重なっていると来校者マイナス要因と考えられる。体育祭は毎年、幼稚園・保育所との交流を続けられており、今後も日程も考慮しながら継続したい。 |
| | 人権教育の活動を進める部活動の「あこう研究会」の活動を充実させる。 | 校内活動及び「中・高生による人権交流事業」南部ブロック生徒部会や地域との交流会等に85%程度参加させる。 | 南部ブロック生徒部会や中・高生による人権交流集会をはじめ、地域との交流会、他校との交流会等あわせて参加率が90%以上であった。 | A | | 地域との連携をはかり、生徒の自主性・主体性を育成する。 |
| 人間力の向上 | ①基本的な生活習慣の確立を図る | 規則正しい生活に心掛けるよう指導し、家庭との連携を深めながら遅刻防止に取り組む。(遅刻時の声かけ、月遅刻6回以上生徒への指導)(生徒課 | 1日の学校全体の遅刻数を7回以内に作る。(平均) | C | 遅刻指導をさらに充実すべきである。時間遵守は社会生活を送る上で必要不可欠である。 | 家庭との連携を深める。進路の決まった3年生や学校生活に慣れてきた1年生の気を引き締める強化月間を設ける等の工夫をする。 |

| | | | | | | |
|-------------|--|--|---|--------|--|--|
| | 長・学年主任・各科長) | | | | | |
| | 積極的に明るく元気な挨拶が出来るようにする。 (パワフル週間、学校安全の日) | すべての生徒が挨拶出来る。 | パワフル週間や学校安全の日、又登校時の服装指導等を通して指導にあたった。 校内でも運動部生徒を中心に他の生徒も概ね元気に挨拶が出来た。 | B | 元気な挨拶ができる生徒が多いが、まだ十分でない生徒もいる。教員が率先して模範を示すことも大切である。 | 今後も継続し、積極的に挨拶できるように指導を行う。 |
| | 頭髪・服装を正しくし爽やかに生活する。 (全校集会における頭髪服装指導と継続的な指導) | 頭髪服装検査を月1回実施し、1週間以内に改善を要する生徒を30人以内にする。 | 毎月の全校朝会において、係り教員を中心に指導を行った。頭髪以外における改善を要する生徒の1ヶ月平均人数が50名であった。そのほとんどはカラーと校章の付いていないものである。頭髪については、年度当初に多くの生徒を指導したため、その後は減少した。 | C | 頭髪・服装の大切さを時間をかけて十分に指導すべきである。最初から注意だけをすべきでない。 | 校章・カラー・頭髪の指導を全教員で徹底したい。また、来年度新入生からブレザーに変更となるため、新制服の着こなしについても全教員が共通認識できるように努める。 |
| ②人権意識の高揚を図る | 「人権学習ホームルーム活動」の充実を図る。 | 人権感覚を高めるため、「じんけん」、「あわ」人権学習ハンドブックをそれぞれ5回程度活用する。 | 人権を確かめる日、人権学習ホームルーム活動において参考資料として、5回以上活用した。 | A | 職業教育の評価が向上するように全職員での取組指導を期待している。 | 資料集「じんけん」の活用回数を向上させる。 |
| | 学校の教育活動全体をとおして、人権尊重の精神を訴える。 | 生徒の人権学習アンケート等の評価を65%程度にする。 | 3年生のアンケート結果より、人権学習ホームルーム活動で「有意義であった」と回答した生徒は77.7%を占め、満足していると思われる。 | A | | 人権意識の高揚と問題解決に対する態度や行動をさらに充実させる指導を計画的に実施する。各科と連携して指導を充実させる。 |
| | 公正な採用選考のあり方について理解させる。 | 校内管理職面接で、「就職差別につながる」とされる14項目に抵触する質問を受けたとき、80%以上の生徒が指導したとおりに答えられるように指導する。 | 人権学習ホームルーム活動や各科での就職面接指導の成果もあり、おおむね達成できた。 | A | 阿南工業高校の生徒は社会に出て働く力を持っている。 | |
| | 校内人権教育教職員研修の充実をはかる。 人権教育関係行事の内容を充実させる。 | 人権学習ホームルーム活動打合せ会と教職員研修会を合わせて年8回以上開催し、85「人権を確かめる日」や人権問題に関する講演会・映画会等を実施する。 | 人権学習ホームルーム活動打合せ会と校内教職員研修会をあわせて、8回以上実施した。参加率は88.4人権啓発DVD「アニメめぐみ」を鑑賞し、日本人拉致問題について理解を深めた。 | A A | 実に多くの取組がなされており、生徒は多様な経験ができている。 | 教職員研修会の参加率を向上させるための工夫・改善等が必要である。映画会と講演会の2本立てで計画する。 |
| ③環境教育を推進する | 校内美化を徹底する。 | 毎日の清掃出席簿を作成する。 | 清掃出席率は100%に達しなかったものの、ほぼ全員作業した。 | B | 普通科では実践できないことが、ここでは経験できているため、生きていくための力を十分に育てている。 | 次年度も奉仕の精神を培わせたい。 |
| | | 年1回の全校除草(技師との連携)を行う。 | 本年度は、校舎全面改築のため除草作業が実施できなかった。 | C | | 次年度は、何とか実施したい。 |
| | 資源ゴミの分別を徹底し、 | 教室等のゴミ資源を6分類す | ゴミの分別はしっかり出来ていた。 | | | 来年度もAを目指したい。 |

| | | | | | | |
|--------------|---------------------------------------|---|---|---|--|---|
| | 循環型社会形成を推進する。 | る。学期に一度ゴミ袋内の分類程度を確認する。 | 毎月、雑古紙置場を点検できた。 | A | 外廻りの仕事をしていると、阿南工業高校卒業生の良い評判をよく聞く。 | 次年度は、完全分別を目指したい。エアコン導入によるためだと思われるが、設定温度の適正化により省電力を目指したい。節水も呼びかけたい。 |
| | | 月一度ゴミ資源の集積状況調査をする。年1回雑誌を古紙業者収集依頼する。 | 再三の喚起にも関わらず、雑誌等以外のゴミが雑古紙置場に置かれていた。 | C | | |
| | 省エネルギーへの取り組みをする。 | 電気使用量・水道使用量を前年比で減少させる。 | 前年度より、電気使用量が増えた水道使用量が若干増えた。 | C | | |
| | 環境問題講演会を実施する。環境問題標語・ポスターを募集する。 | 3年間で環境問題の重点課題が理解されるよう講演内容を検討する。 | 講演会は実施できなかった。ポスター提出率は全体で60%であった。 | C | | |
| ④安全教育を推進する | 防災教育の推進。火災時の初期消火と避難、人員確認。地震時の避難と人員確認。 | いつでも、どこでも安全に避難し、人員が確認できるような体制を整備する。避難訓練をより実践に即した方法に改善する。 | 安全確認体制がしっかりできた緊急避難訓練が実施できた。 | A | 災害時の危機管理は大変重要である。阿南工業高校は、地域の避難場所にもなっていることから、今後も地域と連携した防災活動に取り組んでほしい。 | 次年度は、環境問題の講演を予定したい。提出率向上を目指したい。 来年度も完全実施を目指したい。 自転車通学時の安全の意識を高める指導を行う。また本年度より実施されている自転車安全利用に関する条例を遵守する指導を行う。(自転車整備・ヘルメット・自転車保険) |
| | 自転車・原付の交通事故をなくすため、交通安全意識を高める指導に取り組む。 | 交通事故0を目指す。月1回自転車点検と駐輪指導、原付安全実技講習会の実施。交通安全講演会の実施。 | 登校時の交通指導や、原付の実技指導、免許所有者集会を定期的に行った。月に一度自転車駐輪指導を実施した。本年度より交通安全講話を実施し、交通安全に関する意識を高めることができた。しかし、毎月1回以上登校中の軽度の自転車事故の報告があった。原付事故の報告はなし。 | C | | |
| ⑤健康教育を推進する | 円滑な教育相談活動を実施するために教育相談の広報活動を行う。 | 教育相談室を毎日開室する。“教育相談だより”を発行する。 | ほぼ毎日、教育相談室を開室した。教育相談だよりを2回発行した。 | A | 教育相談室を活用していることは、とてもよいことである。生徒の心のケアを今後とも続けて欲しい。 | 教育相談に関する情報の啓発を積極的に行う。 食育カルタをホームルーム活動で実施し、地産地消の啓発等も行っていく。 保健だよりやその他の掲示資料等で保健に関する啓発を迅速に行っていく。校内の特別支援体制を整える。 |
| | 食に関する知識と食を選択する力を習得させる。 | 食育に関する講演会を実施する。食育かるた等を活用し、生徒の食に関する知識の向上を図る。 | 食育講演会を実施し、食の自立や栄養指導等、将来の食生活に必要な知識について理解を深めた。 | B | | |
| | 生徒自らが健康管理ができるように、継続的な保健指導を行う。 | 保健だより等で保健に関する啓発を行う。繰り返し保健室を利用する生徒の数の減少を図る。 | 保健だよりを10回発行した。文化祭での展示を実施し、意識啓発を図った。 | A | | |
| ⑥特別支援教育を推進する | 特別支援教育についての研修を充実させ、効果的な支援をめざす。 | 特別支援教育について校内教職員研修会を6回実施する。支援の必要な生徒がいる場合にはケース会議を行い、職員全体の共通理解を図る。 | 特別支援教育についての校内教職員研修会を5回実施した。 S Cとの連携強化を図り、ケースに応じて個別対応(本人・保護 | A | 生徒の声を聞くことのできる教員を育てて欲しい。 | の知識サポートとなるような「支援だより」を発行する。外部機関との連携を図り、支援体制を強化する。 |

| | | | | | | |
|--------|--------------------|---|--|---|--|---|
| | | 外部機関と連携し、生徒にとってより適切な支援を行う。各学期に1回程度、支援だよりを発行する。 | 者)を行った。 支援だよりを各学期に1回発行した。 | | いじめの未然防止・早期発見のために組織的・計画的に実践して欲しい。 | 教職員研修の充実を図る。 |
| | ⑦学校いじめ防止の取組を進める | 学校いじめ防止基本方針を作成し、PTAの理解と協力を得て、取組を進める。 | 全教職員がいじめの定義を再確認し、いじめを許さない学校として早期発見、再発防止に取り組む。また年1回以上、いじめをはじめとする生徒指導上の諸問題に関する校内研修を行う。 | B | 未然防止のために、7月と12月に学校生活やいじめについてのアンケートを実施した。計画的に校内巡視を行い、生活状況の把握に努めた。保護者との連携や、個人面談を適宜行い、いじめの早期発見ができた。 | いじめは必ずあるという認識のもと、全教職員がいじめの定義について理解し、校内研修を行い組織での対応強化を図りたい。 |
| | ⑨ボランティア活動を推進する | ボランティア活動を通し地域や世代を超えた交流を行う。 | 生徒会だけでなく部活動を巻き込んだボランティア活動を3回実施する。 | A | インターアクト部が、文化祭で募金活動を行ったり、生徒会役員がJR阿南駅の風鈴棚の飾り付けを行ったりした。 | 生徒会役員の多くが運動部に所属しており、時間的余裕がないのが現状である。今後は運動部とともにボランティアの機会を作っていきたい。 |
| 実践力の育成 | ①ものづくりの技術・技能の向上を図る | 教員の旋盤技術及び溶接技術向上のための校内研修会を実施する。校外の研修会や実技講習会へ積極的に参加する。 | 校内研修会を1回以上実施する。科から1名以上参加する。 | A | 資格取得補習を多く実施し、生徒が多く資格取得により達成感を得られるように、努力して欲しい | ものづくり校内研修を最低でも1回以上実施する。校外研修に2名以上参加する。四国大会への出場をめざし、県大会では2位以内に入る。 |
| | ②ものづくり技術を生かす | 実習等の成果を基に、各種コンテストや大会に参加して上位の成績を残す。 | ものづくりコンテスト、ロボット競技大会、四国溶接技術競技会に出場する。 | C | 教員の負担が増えることは理解しているが、各種コンテストにできるだけ多く参加して欲しい。 | ロボットにも挑戦する。中央テクノスクールと連携を図り、溶接技術の向上を図る。安全につながる正しい服装着用の徹底を図り引き続き、安全対策の強化に努める。 |
| | ③安全作業教育を推進する | 実習を通して、事故や怪我にあわないよう生徒の安全に対する意識の高揚を図る。 | 実習前に服装の確認や作業手順・ルールを徹底する。安全の確保ができるように職員が実習場の点検、体制を整える。生徒による評価を実施する。 | A | 重大事故につながる恐れがあるので集合時の服装チェックは徹底して行い、ほぼ全員が正しく出来ていた。生徒評価93% | |
| | ④阿工版デュアルシステムの充実を図る | 2学年全員参加の短期インターンシップと3学年希望者が参加する長期インターンシップの充実を図る。 | 生徒の進路希望に応じた行き先を確保する。評価平均値3以上の評価ができるようにする。 | A | 各インターンシップに関しては内容の拡充に向けて取り組んでいる。生徒の評価においても4以上の結果である。 | 引き続き取り組む。 |
| | ⑤望ましい職業観・勤労観の育成を図る | 進路セミナーの実施により進路に対する意識の効用を図る。社会人講師の活用や企業見学・現場見学を通して職場の状況や | 企業の人事担当者、卒業生を招く。卒業生・社会人講師を招いて進路セミナーや見学会を実施する。生徒アンケートによる評価を行う。 | A | 進路セミナーは3月実施予定である(昨年度の生徒評価80%) 現場見学会は2回実施している。また、「Tokushima Cool Japan事業」などで社会人講師を活用した取り組 | 本年度同様実施予定来年も様々な資格取得の増進を図る毎年連携できるように努める。 |

| | | | | | | | |
|--------|-------------------------|--|---|---|---------|--|---|
| | | 働くことの大切さを理解させる。 | | みを実践している。 | | | |
| | ⑥資格取得を推進する | 合格率をあげるために可能な限り、資格取得補習を実施する。様々な資格取得にチャレンジするよう指導し、自主教材づくりを行う。昨年度以上の受験者数、合格者数、合格率を目指す。 | 旋盤3級技能検定に向けた実技指導を行い合格率を8割以上にする。ボイラー協会と連携し2級ボイラー技士試験対策用の重要事項のまとめを作り、合格率を6割以上とする。工業学会優秀賞受賞（資格ポイント8）を目指すような資格取得にチャレンジするように指導する。2級土木施工管理技士の受験者を昨年より増加させる。 | 三級技能士全員合格 2級ボイラー技士希望者1名 工業学会優秀賞受賞者3年17名2級土木施工管理技士の受験者は昨年より増加した。 | B | 各科の目玉となるような資格を積極的に取らせて欲しい。例えば機械科の生徒格に電気科の資格を取らせる等である。 | |
| | ③産官学連携を推進する | 地域社会や企業、産官学と連携したものづくりや、ものづくり技術・技能の継承を行う。 | 産学官実学モデル事業に参加して、企業等と連携しながら生徒の技術・技能の向上を図る。連携先の評価も用いる | 阿南生コンクリート工業を連携し、徳島ならではのものづくりとして橘火力発電所のフライアッシュを用いた高耐久コンクリートの研究を行った。生徒は専門性の高い知識・技術が習得できた。 | A | | |
| 地域との交流 | ①地域貢献を推進する | 地域や小中高等のニーズ把握を踏まえたものづくりを通して地域貢献、学校間連携を図る取組を実施する。また、環境・防災関連製品を製作し地域へ応える。 | 連携先からの聞き取りアンケートにより6割以上の満足度を得る。地域の要望に応えられたか聞き取りアンケートにより6割以上の満足度を得る。 | 6次産業化プロデュース事業(県南)で3高校と連携し、工業高校のものづくり力を活用した取組を行った。地域産の竹を使つての防災関連品づくりと地域への配布が出来た。 | A | 6次産業化教育は、地域と連携できたり、地域資源の価値に気づいたり、新たな産業を生み出したり、また地域の活性化を担う将来の人材が育成できると思う。今後も積極的に行って欲しい。 | ものづくりで地域貢献活動は重要な取り組みであるので、引き続き連携の促進を図る。 |
| | ②積極的な広報活動と学校開放を推進する | ホームページの内容を充実させるとともに、定期的に更新し最新の教育活動を広報する。 | 週1回程度はホームページを更新できるよう各課等に働きかける。 | 1月末で59回 | B | | 今年度と同様、各課等に地道に働きかける |
| | | 本校の教育内容や教育活動について、中学校に対し説明し広報に努める。 | 訪問校を前年度より増やす。 | 中学校への訪問回数 のべ20回(26回)と比較して23%減少 | C | 中学校への訪問回数および説明の対象者の拡大を図る。 | 本年度を上回るだけでなく、本校をより理解していただけるよう努める。 |
| | | 中学生とその保護者を対象とする体験入学の内容を充実させる。 | 満足度70%以上を目指す | 参加者アンケートにより増加。大変良かった(99名)、良かった(38名)合計137人、全参加者155名に対して88.3%。 | A | 体験入学、公開授業はさらに取り組んで欲しい。 | 体験入学で本校ならではの体験をして、良い印象を持ってもらいたい。 |
| | ”徳島教育の日”に合わせ、中学生とその保護者、 | 参加者を前年度より増やす。(受付名簿による) | 参加者240名(160) 約50%増加 | A | 地域貢献の推進 | 本校の見学を通して、ものづくりに関心を | |

| | | | | | |
|--|--|--------------------------------|---|---|--|
| | 近隣住民に対し、公開授業、施設開放などを行う。 | | | は精力的に行われている。さらに取組を強化して欲しい。 | 持ってもらいたい。 |
| | 文書案内だけでなく、情報ネットワーク課と連携し、学校ホームページ上でPTA活動の案内を積極的に行う。 | PTA活動のすべてをタイムリーに広報する。 | 文書案内も適宜に連絡を完了することができ、各会、研修会などPTA活動の情報等も発信ができたと思う。 | B | 保護者が学校ホームページでPTA活動の様子がわかるようにアップできるように努力する。 |
| | PTA活動を活性化させることにより、保護者が気軽に来校できるような学校づくりを推進する。 | PTA総会、各種研修会などへの参加人数を昨年度以上に増やす。 | 各役員会・研修会・阿工祭など多くの役員の方の参加を得ることが出来た。PTA日帰り研修旅行は大変な盛況で、防災に関する研修ができた。 | B | 保護者にとって魅力的なPTA活動を展開し、PTA総会、各種研修会等への保護者の参加人数を増加させ、PTA活動を活性化させる。 |
| | | | | NPO法人や中小企業家同友会との連携など、地域との連携がしっかりとできている。 | |